

平成24年度決算と

財政状況

平成24年度の各会計の決算がまとまり、9月定例市議会にて認定されました。

平成24年度決算の概要と市の財政状況について、一般会計を中心にお知らせします。

問 財政課 財政班 ☎73・0085

一般会計決算の概要

歳入・歳出とも減

実質収支は6億円超の黒字
一般会計決算額は、歳入総額が147億3380万円、歳出総額が140億5148万円でした。

歳入と歳出の差引額6億8232万円から翌年度に繰り越すべき財源6991万円を除いた実質収支額は6億1241万円の黒字でした。



今年3月に完成した豊栄小新校舎

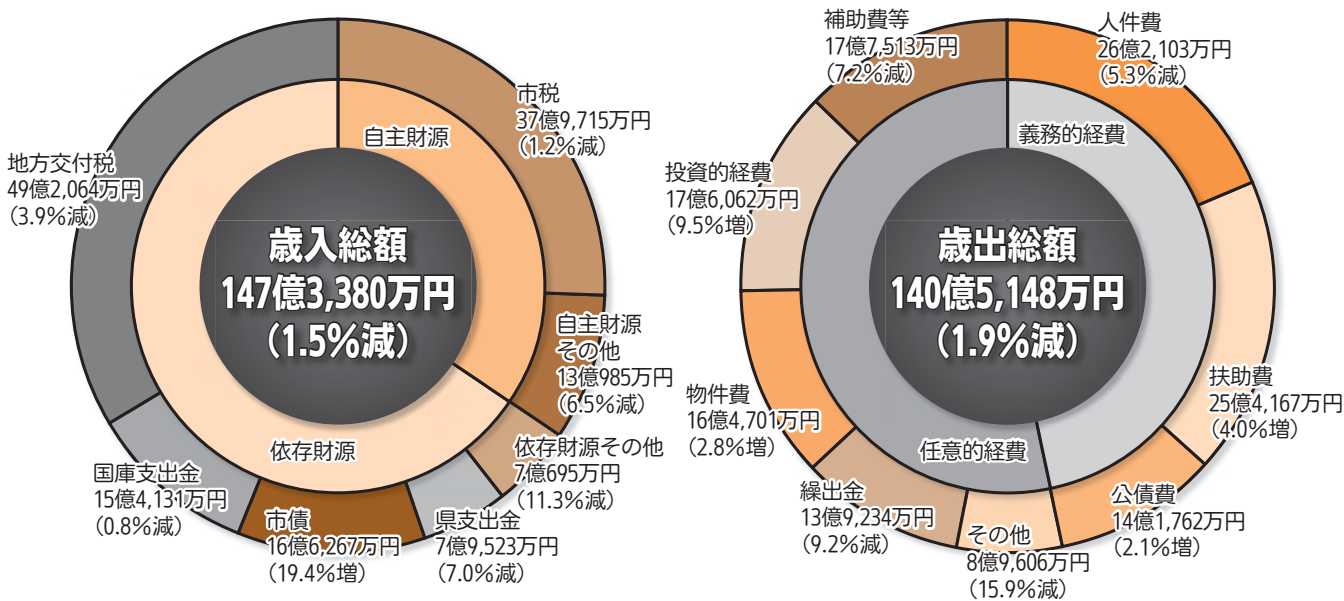
◆歳入 2億2684万円減

歳入は、豊栄小や野栄中の校舎耐震改築事業などに伴い市債が増加しましたが、震災復旧費用の減少による地方交付税の減少や、災害見舞金などの諸収入の減少により、前年度決算と比較して2億2684万円(▲1・5%)の減額となりました。

◆歳出 2億6979万円減

歳出は、小中学校校舎耐震改築事業などにより投資的経費が増加しましたが、職員数の削減などによる人件費の減少や、国民健康保険特別会計などへの繰出金の減少、匠瑛市横芝光町消防組合などへの負担金が減少したことによる補助費等の減少などにより、前年度決算と比較して2億6979万円(▲1・9%)の減額となりました。

一般会計歳入歳出決算内訳



() 対前年度比

◆会計別決算額

	歳入	歳出	差引	繰越財源	実質収支
一般会計	147億3,380万円	140億5,148万円	6億8,232万円	6,991万円	6億1,241万円
国民健康保険特別会計	57億6,583万円	53億1,521万円	4億5,062万円	—	4億5,062万円
後期高齢者医療特別会計	3億2,626万円	3億2,488万円	138万円	—	138万円
介護保険特別会計	28億7,753万円	27億7,284万円	1億469万円	—	1億469万円
計	237億342万円	224億6,441万円	12億3,901万円	6,991万円	11億6,910万円
	収益	費用	差引		資金剰余額
病院事業会計	25億1,114万円	26億840万円	▲9,726万円	—	10億91万円

※合計などは、四捨五入の関係で一致しないことがあります。

市の借金（市債）と実質負担額

道路整備や学校などの施設の建設には多額の経費を必要とするため、お金を借りています。こうした施設は、将来にわたり長期間利用されるため、借り入れたお金を次世代の市民の皆さんにも負担していただくことで世代間の公平化を図る目的があります。

◆市全体で150億7579万円

市債残高は、24年度末現在で一般会計が139億1535万円、病院事業会計が1億6044万円あり、市全体では150億7579万円でした。23年度末より2億1359万円増加しています。これらの借金は、主に国などの公的資金から借りており、借入総額の79%を占めています。その他市内の金融機関などからも借りています。

◆実質の負担額は約3割

市債残高のうち最も多いのは、臨時財政対策債59億6790万円、40%を占めています。これは、国から地方へ交付される地方交付税の代わりに発行する地方債で、将来元利償還金の全額が国から補填され、実質的な市の負担は

ありません。

この他にも市債の種類に応じた補填があり、市債残高150億円超のうち67%は市債の返済に対して国から補填されることになっています。

一般会計の市債残高を市民1人当たり換算するとおおよそ35万円です。県内37市の平均は30万円、本市は借金が

◆市債残高と市の実質負担額

		市債残高	交付税率	実質負担率
一般会計	臨時財政対策債	59億6,790万円	100%	0%
	合併特例債	18億8,960万円	70.0%	30.0%
	その他市債	60億5,786万円	45.7%	54.3%
小計		139億1,535万円	72.3%	27.7%
特別会計	病院事業債	11億6,044万円	5.8%	94.2%
合計		150億7,579万円	67.2%	32.8%

※合計などは、四捨五入の関係で一致しないことがあります。

その他市債の主な使いみち

・道路整備などに	26億9,439万円
・学校建設などに	17億3,082万円
・上水道整備などに	5億79万円
・農道整備などに	2億9,545万円
・消防・防災などに	7,415万円
・保育所建設などに	2,920万円

市の貯金（基金）

市の貯金を基金といい、匣瑳市には、自由に使える財政調整基金の他、学校施設整備の財源となる学校施設整備基金など、15の基金があります。

◆基金残高は49億2916万円

基金の残高は、合計で49億2916万円でした。地域振興基金やふるさと振興基金を積み立てたことから、23年度末より6億7115万円増加しています。

このうち財政調整基金の残高は、23年度末より2億1979万円増加し、18億4408万円でした。市民1人当たり換算すると4万7千円で、県内37市の平均の4万円と比べて多くなっています。

健全化判断比率・資金不足比率

財政状況が著しく悪化する前に、財政状況を明らかにし、悪化した場合にも迅速な対応が取れるよう、地方公共団体は毎年度、健全化判断比率と資金不足比率を、監査委員の審査に付した上で、議会に報告するとともに住民に対して公表することが義務付けられています。

この健全化判断比率により「健全段階」、自主的な改善努力で健全化を行う「早期健全化段階」（いわゆるイエローカード）、国の関与で確実な再生を行う「財政再生段階」（いわゆるレッドカード）の3段階に区分されます。

早期健全化段階や財政再生段階になった場合には、段階に応じた枠組みに従って財政健全化を図ることとなります。

◆健全段階の基準をクリア

24年度決算における本市の健全化判断比率は、いずれも早期健全化基準を下回り、健全段階にあります。

また、資金不足比率も、経営健全化基準を下回り、健全段階にあります。

◆健全化判断比率

	内容	匣瑳市	早期健全化基準 (黄信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	市の財政規模に対する一般会計の赤字の割合	赤字なし	13.39%	20.00%
連結実質赤字比率	市の財政規模に対する全ての会計の赤字の割合	赤字なし	18.39%	30.00%
実質公債費比率	市の財政規模に対する借金返済額の割合	8.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	市の財政規模に対する負債の割合	51.7%	350.0%	

◆資金不足比率

	内容	病院事業会計	経営健全化基準
資金不足比率	公営企業の事業規模に対する資金不足額の割合	資金不足なし	20.0%